

# ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2017

---

シーニックバイウエイ北海道 推進協議会

平成30年11月5日



# ベストシーニックバイウエイズプロジェクト2017



Scenic Byway HOKKAIDO

平成20年度よりシーニックバイウエイ北海道の推進に向けて、他の模範となるルート活動であり、将来への発展性が高く評価できる取組を選出し表彰する「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト」の取組を実施。

ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2016  
いにしえ街道の景観を活かした街づくり  
(どうなん・追分シーニックバイウエイルート)



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2015  
そらの森の植樹活動～地域で育てる森プロジェクト～  
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ)



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2014  
「ライフコンシェルジュ（ご当地風土アドバイザー）  
育成事業」（トカプチ雄大空間）



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2013  
「タカラモノプロジェクト」（支笏洞爺ニセコルート）



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2012  
「トカプチまる得めぐり券事業」（トカプチ雄大空間）



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2011  
「学校シーニックバイウエイ」（南十勝夢街道）



## <表彰>

- 活動団体賞 1 件（指定・候補ルートを対象） 【エントリー数 14件】
- 部門賞 3 件（指定ルートを対象）

### <エントリー部門>

- 美しい景観づくり賞 【エントリー数 3件】
- 活力ある地域づくり賞 【エントリー数 5件】
- 魅力ある観光空間づくり賞 【エントリー数 6件】

※部門賞は、部門ごとに 1 件とし最大 3 件とするが、評価の結果によってはこの限りではない。

- 最優秀賞「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2017」1 件（指定ルートを対象）  
部門賞の中から 1 件選出

## <評価の視点>

地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否かに評価の軸を置くとともに、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

### －部門賞及び大賞－

- 持続性（取組の継続性の程度を評価）
- 浸透性（地域内への広がり程度を評価）
- 拡張性（モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価）
- 連携性（地域同士や他団体との連携の程度を評価）
- 先進性（新しいものに取り組んでいく姿勢の程度を評価）
- 効果性（定量的・定性的な効果の程度を評価）
- 人材育成

## ▼各賞決定までの流れ

募集開始



各ルートから活動の応募



### ■ 活動団体賞

各ルートによる投票

- ※対象：指定及び候補ルート
- ※自ルート以外に、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを活動団体賞として選出



### ■ 部門賞、最優秀賞

ルート審査委員会にて審査

- ※対象：指定ルート
- ※ルート審査委員が、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを部門賞候補として選出
- ※選出された部門賞候補から最優秀賞を選出



推進協議会にて活動団体賞、部門賞及び最優秀賞を決定

# 活動団体賞候補〔エントリー14件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

NO	ルート名称	活動名称	点数	主なコメント
①	支笏洞爺二セコルート	～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～ ビューポイントパーキングの景観改善（電線移設）	24	長年に渡る活動の成果だと思えます。団体、行政、管理者の連携が なした事業だと思えます。
②	大雪・富良野ルート	ゴミゼロキャンペーン	5	活動の継続性から参加人数も多く、広範囲での取組も評価する。
③	東オホーツクシーニックバイ ウェイ	シーニックデッキの設置	4	シーニックデッキからマルシェへの結び付け。地元建設業者のサ ポート体制を創ったことを評価。
④	東オホーツクシーニックバイ ウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー	1	民間企業との連携に対して評価する。
⑤	函館・大沼・噴火湾ルート	キャンドル製作体験会～シーニックdeナイト～による地 域人材育成	12	地元の園児、生徒、学生が参加する、地元に着した地域おこしと しての魅力がある事業。
⑥	釧路湿原・阿寒・摩周シー ニックバイウェイ	てしかが情報掲示板による情報提供の試行と効果検証	24	インフォメーションカードによる情報提供は秀逸。そこにクーポン を付けるという機能拡張も、事業検証が良く行われていると感じた。
⑦	札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート	地域づくり講演会&勉強会	5	ルート指定となってから6年が経過し、ルートメンバーの意識を改 めて統一する、または地域課題をルート全体で再認識するためにも よい取組と思われる。
⑧	どうなん・追分シーニックバ イウェイルート	どうなんフットパス・ロード及び歴史の道掘り起し資源 調査整備推進事業	6	9町の個性を引き出し、フットパスも含めて地域の歴史・文化を生 かした取組がされ ている。
⑨	<b>宗谷シーニックバイウェイ</b>	<b>利尻島一周サイクル ブランド化事業</b>	<b>29</b>	<b>◎ 観光客はもとより、地域住民も気軽に参加できる可能性を秘めてお り、地域おこしとしても高評価。</b>
⑩	釧路湿原・阿寒・摩周シー ニックバイウェイ	シーニックカフェと道の駅が連携したスタンプラリーの 開催	3	地域で連携されて総数も前年度と比較し、全てにおいて大幅にアッ プされている。
⑪	萌える天北オロロンルート	シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進	1	継続的にカフェの運営、サービスの提供をしている仕組みが高評価。 カフェ同士の交流、連携により相乗的に活性化が期待できる。
⑫	十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間	S N Sを活用したルート情報発信事業	4	今後、ますますリアルタイムな情報発信が求められます。むつかし いツールだと思えますが、こうした取り組みは是非必要だともい えます。今後の取組みに期待です。
⑬	天塩川シーニックバイウェイ 宗谷シーニックバイウェイ	『きた北海道エコ・モビリティ』の推進	22	地域だけの取組ではなく、参画したJR・運送業、自治体、企業等な どの多様性かつ広域での活動を高く評価する。
⑭	層雲峡・オホーツクシーニッ クバイウェイ	シーニックマルシェの開催	0	-

活動名称 **利尻島一周サイクル ブランド化事業** エントリー部門 **魅力ある観光空間づくり**  
 ルート名称 **宗谷シーニックバイウェイ**

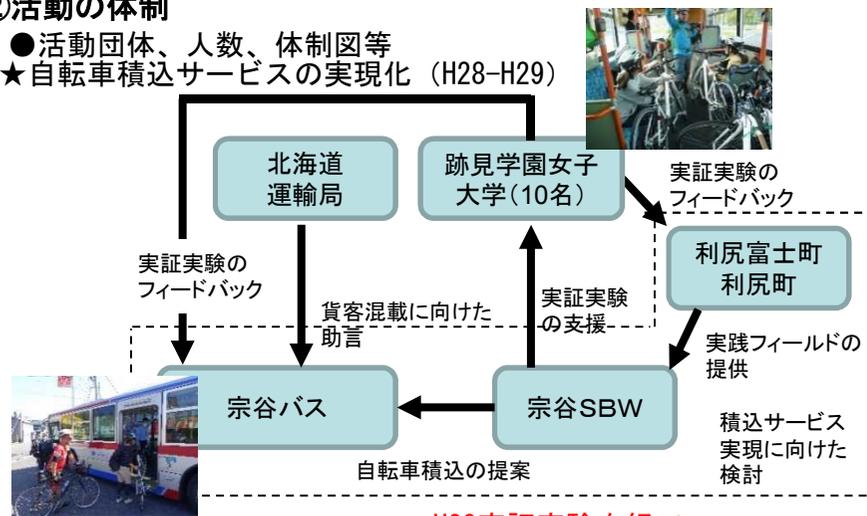
①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：宗谷SBWでは、宗谷地域の滞在型観光・ロードツーリズムを推進を大目標に「宗谷版スイス・モビリティ事業」を継続的に展開している。「環島」や「ピワイチ」などがサイクリストに人気を博している昨今、利尻島一周もサイクリングロード適地とすることを目標に、島内周遊の利便性向上とブランド化に向けた取り組みを行った。
- 活動内容：島内循環バスの自転車積込の実現化と利尻島一周サイクリングコースの愛称募集を通じたPR事業と利尻島一周ツアーの企画運営
- 活動期間：28年度～29年度

②活動の体制

- 活動団体、人数、体制図等

★自転車積込サービスの実現化（H28-H29）



H28実証実験を経て、  
H29年自転車積込サービスの実現化！

★利尻島一周サイクリングコースの愛称募集を通じたPR事業（H29）

7月20日(木) ～8月15日(火)	特設HP及びサイクル雑誌にて、愛称募集期間(全国から415件の応募)	利尻・彩くるロード Rishiri Cycling Road～The Multi-colored Trail～  日本海に浮かぶ最果ての「利尻山」。見る角度・季節によって様々な表情を楽しめます。麓には美しい海岸線が続き、海の向こうには礼文島と360度パノラマが続き、彩豊かな自然美・絶景がサイクリスト魅了します。
8月27日(日)	「第29回利尻島ふれあいサイクリング大会」での人気投票	
8月28日(月)	利尻島一周サイクリングコース愛称審査会	
9月8日(金) ～9月10日(日)	夜行バスで行く1泊3日利尻島サイクルツアーの実施	

③PRポイント

- 【苦労した点や工夫した点】①宗谷地域の二次交通の脆弱性の解消とロードツーリズムによる地域の魅力増幅を連動させ、弱みを強みに逆転させる発想を採った。②全国的なサイクル雑誌を通じて愛称募集をすることで、全国的なPRを行った。また、サイクルイベントでの投票により実際に利尻島を走ったナマの声を反映できた。
- 【活動の成果】①H29年度に自転車積込サービスが実現し、ライト層でも島内自転車周遊を楽しめる環境整備が大いに前進した。②応募数が期待以上で、愛称募集を通じたPR手法に手応えあり。
- 【今後の活動予定等】①今後利尻島での実証結果を他地域でも応用し、自転車を観光手段の媒体とすることで、二次交通・三次交通が脆弱な中でも宗谷観光の楽しみ方を倍増させていきたい。②H30年は「利尻島ふれあいサイクリング大会」が30周年となる。周年と抱き合わせでより愛称を普及させていく取り組みを行いたい。

# 部門賞 美しい景観づくり部門候補〔エントリー 3件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～ ビューポイントパーキングの景観改善 (電線移設) 【支笏洞爺ニセコルート】	27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シーニックの原点・基盤である道路景観の再生むけて、持続的にかつ丹念に取り組んでいる。</li> <li>・長年の景観向上活動を踏まえ、電線移設を実施できた。この景観向上効果は非常に大きい。</li> <li>・長年の景観価値を向上させようとする活動、働きかけ、努力により、電線が移設されたことは、全国展開されようとしている無電柱化のトップランナーとして意義が大きい。また、景観価値の高まりによって訪問者の活動が変わったことも興味深い。</li> <li>・景観改善の原点。他地域への波及効果期待</li> <li>・景観づくりの要となる電線の移設の実現はシーニックの景観改善のモデル事業となる。10年を越えての継続的な維持管理活動の成果の表れであると評価する。</li> </ul>
2	ゴミゼロキャンペーン 【大雪・富良野ルート】	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民参加による持続的な活動を評価。</li> <li>・地道だけど大事な活動</li> <li>・継続は力なり</li> <li>・13年を越える地道な活動を高く評価する。一般に景観づくりは一朝一夕で出来るものではなく、関係者の地道で息の長い取組が必要である。定着させることの難しさを乗り越えた取組と評価する。</li> </ul>
3	シーニックデッキの設置 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多団体との連携、特に農業活動を巻き込んだ連携活動を評価。</li> <li>・地道だけど大事な活動</li> <li>・設置箇所増加</li> </ul>

# ベストシーニックバイウェイプロジェクト2017

活動名称

～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～  
ビューポイントパークの景観改善(電線移設)

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

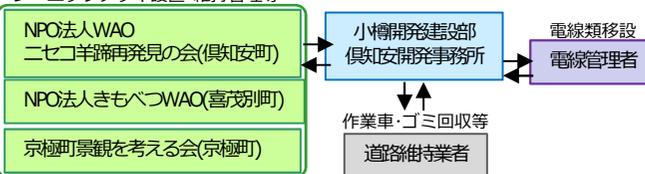
支笏洞爺ニセコルート

## ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標:  
シーニックバイウェイの原点と考える“美しい沿道景観づくり”と快適な休憩スペースの提供を目的とした取組。  
⇒国道276号倶知安町「八幡ビューポイントパーク」は、地域のシンボルである羊蹄山が一望できるスポットでありながら、電線・電柱が眺望の妨げとなっていた。  
⇒電柱の老朽化による更新に伴い電線を移設し、羊蹄山を望む景観を大幅に改善し、シーニックデッキもリニューアル。
- 活動内容:ニセコ羊蹄エリア内のビューポイントパーク3箇所での景観活動(草刈、花植え、ゴミ拾い、シーニックデッキ設置・維持管理)  
※道路管理者との景観診断を経て、地域・電線管理者と連携した電線移設の実現(平成29年度)
- 活動期間:平成17～29年度  
・実施場所:倶知安町八幡、京極町更進、喜茂別町相川の各ビューポイントパーク  
※電線移設は倶知安町八幡

## ②活動の体制

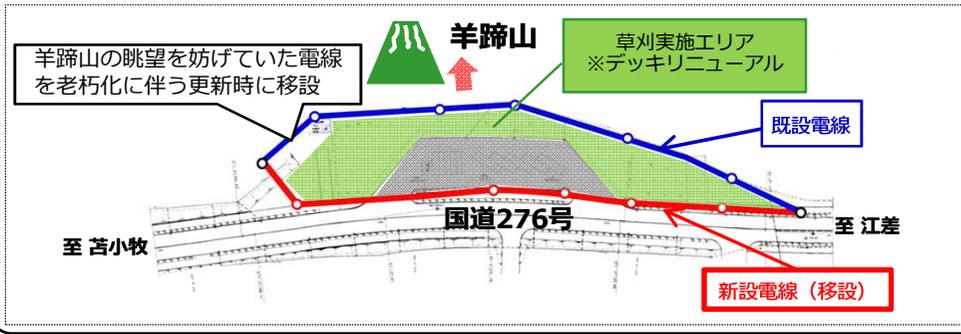
草刈・花植え・ゴミ拾い  
シーニックデッキ設置・維持管理等



取組周知ポスター

## 【「シーニックバイウェイ北海道」の取組により実現(全道初)】

- 平成15年度に「シーニックバイウェイ北海道」の取組としてルート活動団体と道路管理者で道路景観診断を実施し、継続して景観改善について検討
- 平成17～29年度にかけてビューポイントパークの維持管理活動(草刈・ゴミ拾い等)を継続展開  
※3町合同(京極町、倶知安町、喜茂別町)は平成24年度～
- 平成28年度に電柱の老朽化に伴い、更新のタイミングで眺望を妨げない位置に移設する検討が進められる
- 平成29年8月に電柱が移設されビューポイントパークの景観改善が実現



## ③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・地域として大切な場所であるビューポイントの価値を高めるべく、10年を越えて継続的に維持管理活動を実施したこと。
- ・地域・行政・道路管理者等の連携体制が十分に図られていた。
- ・情報拠点等でのプロモーション展開(取組周知ポスターの掲示)

【活動による効果】

- ・地域資源(ビューポイント箇所)の高付加価値化
- ・来訪者の滞在時間の増加/写真撮影者の増加



# 部門賞 活力ある地域づくり部門候補〔エントリー 5件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	ルート内道の駅スタンプラリー 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事な活動だけれども、少しインパクト不足</li> <li>・ルートとルート内道の駅の連携を実質的なものにしたことは初めの一步として評価する。今後はルート間をつなぐ活動へと発展して欲しい。</li> </ul>
2	<b>キャンドル製作体験会～シーニックdeナイト～による地域人材育成</b> 【函館・大沼・噴火湾ルート】	<b>15</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続的な人材育成を評価。</li> <li>・次世代、地域に広がりに向けて人材は非常に大事な要素。そこに向けての活動として評価できる。</li> <li>・更にパワーアップ</li> <li>・事務局中心の活動から、地域一体の活動へと拡大を図り、主体的に活動する人材育成に取り組んだことを評価する。</li> </ul>
3	<b>てしかが情報掲示板による情報提供の試行と効果検証</b> 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	<b>15</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅の情報機能強化に大きな効果がある。クーポンを配付し、利用者動向を把握している点も評価できる</li> <li>・面白い、かつ実践性の高い活動であり。すぐにでも全国展開できるという意味で高く評価できる。</li> <li>・調査方法にクーポン機能を追加するなどの工夫を凝らし実態を把握したこと、クーポン提供店との連携、実質的な経済的効果を上げたことを評価する。</li> </ul>
4	地域づくり講演会&勉強会 【札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート】	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を知る着実な活動への姿勢は重要。地域価値を生み出す活動に結びつくことを期待。</li> <li>・講演会だけでは少し工夫が足りない。</li> <li>・談論風発の場</li> </ul>
5	どうなんフットパス・ロード及び歴史の道掘り起し資源調査整備推進事業 【どうなん・追分シーニックバイウェイルート】	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルートの特徴・歴史性に着目した着実な活動は重要であり、全道・全国への発信を期待</li> <li>・歴史という道南に特有の資源の発掘行い、成果を地図とフォトコンテストとしてアピールしたことも良い。</li> <li>・地域のユニークな資源への地道な取り組み</li> </ul>

活動名称 キャンدل制作体験会～シーニックdeナイト～による地域人材育成

エントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 函館・大沼・噴火湾ルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：これまでのルート運営に係る会議やイベントなどは、ルート事務局が中心となって企画・実施する部分が多く、今後のルートを主体的に運営できる人材の育成を行うことが必要な状況。
- 活動内容：シーニックdeナイトの取組において、シーニックdeナイト実行委員会開催による企画実施・運営に関する講習を各地域団体へ実施し、各地域団体主導によるキャンدل制作体験会やシーニックdeナイトを開催した。
- 活動期間：平成25年度～平成29年度

②活動の体制



第4東光保育園でのキャンدل制作体験会 (園児19名参加)



八幡町会館でのキャンدل制作体験会 (子供・学生70名参加)

③PRポイント

- ・シーニックdeナイトの各実施団体のリーダーに声をかけたシーニックdeナイト実行委員会を開催し、効果的な取組に向けた意見交換等主体的に地域で取り組むといった意識の醸成を図った。
- ・出前講座を通じて得たキャンدل制作方法の知見から、各実施団体のリーダーを中心とした制作体験会を企画・運営・実施した。
- ・また、キャンدل制作に関わった約400名の園児や学童などが、シーニックdeナイトのイベントにも参加してもらえた。
- ・地域人材育成に向けた取組を通じ、今年度ルート内の全自治体でシーニックdeナイトを実施することができた (計13箇所)。
- ・次年度に向け、キャンدل制作体験会やシーニックdeナイトに係る企画立案について検討する実施団体もいることから、地域一帯となった取組が図られたと同時に、地域人材育成の目的についても達成された。

活動名称 てしかが情報掲示板による情報提供の試行と効果検証

エントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

①活動の概要

- 活動の目標：増加する道の駅の利用者(特に夜間利用者)を町内・地域に誘導し、活力を取り戻すとともに、SBWの活動への地域理解を深める
- 活動場所と活動内容：道の駅摩周温泉の24時間トイレ前のスペース(平成28年8月から「てしかが情報掲示板」で情報提供を開始→継続中)

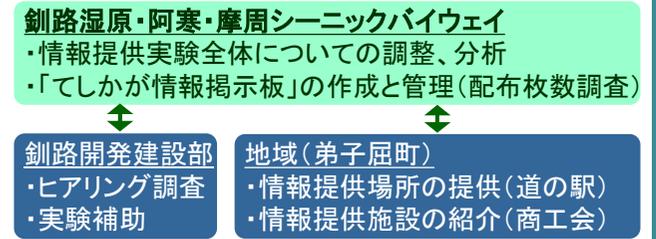
**【背景】 H26・27に夜間利用者の現況調査を実施**  
 ・道の駅までしか来ない観光客(町内まで来ない)  
 ・夜間の利用者(車中泊者も含む)の急増  
 ・観光案内所は18時で閉まるため、夜間利用者の地域情報(入浴施設、飲食施設など)入手が困難

**【平成28年度:情報提供試行の開始】**  
 ・辻谷運営委員長の**手作り**情報掲示板の設置  
 ・弟子屈町商工会と連携して情報提供施設を抽出  
 ・インフォメーションカードによる情報提供開始  
 ・ルートと開発建設部による協働調査の実施  
 → ルート:配布枚数調査  
 → 開建:道の駅ヒアリング調査

◎成果:ニーズの高い情報の把握、高い利用者評価  
 ▲課題:情報提供による効果の定量的な把握

**【平成29年度:クーポン付きカードの配布開始】**  
 ・カードへのクーポン機能の追加(H29年度は**8箇所**)  
 → クーポンの利用状況で情報提供効果を把握  
 ・ルートと開発建設部による協働調査の実施  
 → ルート:配布枚数調査、クーポン施設への調査  
 → 開建:道の駅利用者へのヒアリング調査

②活動の体制

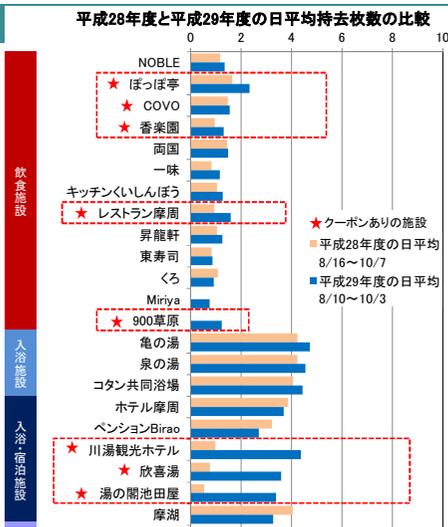


③PRポイント

●苦勞した点や工夫した点：事前調査で地域情報へのニーズの存在はわかっていたが、「ニーズの高さ」や「情報提供による効果(行動変容)」の**定量的な把握**が重要と考え、調査方法を工夫した。情報板が地域の方の手作りであることも、空間に温かみが加わり、情報提供がうまくいっている理由であると思われる。

- 活動の成果：
- ・入浴施設の**情報ニーズが非常に高い**ことを定量的に把握できた
  - ・情報掲示板とインフォメーションカードで情報を収集した人が、実際に施設に向かう(行動変容の発生)状況を把握できた
  - ・効果も明確で、**クーポン協力店舗から感謝、期待**されている
- 今後の活動予定：
- ・短期:平成30年度もクーポン施設を増やして情報提供を継続する
  - ・短期:開陽台(中標津町)の同様の情報板と連携して情報提供を行う
  - ・中期:カードの印刷、追加について地域側(道の駅、商工会など)と協力、連携し、継続的に情報提供を行う体制を構築する

施設名	実験後のヒアリング結果
ぼっぼ亭	実験について、とても感謝された。
香楽園	5名グループ、2名×2グループが利用。活動に対して感謝された。
川湯観光ホテル	とても感謝された。クーポンを継続して欲しいと言われた。特に冬は人が減るので是非継続して欲しいと言われた。
欣喜湯	トラブルはなかったが、いろいろなサービス券があるので少し混乱した。また協力しても良いとのこと。



# 部門賞 魅力ある観光空間づくり部門候補〔エントリー 5件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	利尻島一周サイクル ブランド化事業 【宗谷シーニックバイウェイ】	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利尻島という大きな資源を活用した広域連携が素晴らしい。</li> <li>・サイクルツアー</li> <li>・島という立地を活かしたサイクリングの取組事業は今後、他の島を持つルートのモデル事業となりうる。島内循環バスの自転車積込が実現した活動の成果は大きいと思われる。</li> </ul>
2	シーニックカフェと道の駅が連携したスタンプラリーの開催 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地道な活動が徐々に花開き、参加者数の増加に表れているという印象。丁寧なフォローアップも重要</li> <li>・スタンプラリーの連携開催が7年目、応募者が最高数に達するなど、経済的効果も大きく、成果が目に見える形でできている。とかく実施することが目的となり、成果が伴わない取組もある中で、結果を出し続けていることを評価する。</li> </ul>
3	シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進 【萌える天北オロロンルート】	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅、空港、シーニックカフェの連携の下、スタンプラリーを長年に亘って行っており、データ解析も行っている点も評価できる。</li> <li>・もう少し頑張ってもらいたい。</li> <li>・シーニックカフェのブランド化という他のルートとは違った一捻りした活動は、経済的効果へ直接結び付くと同時に、将来の情報発信基地の構築という重要な役割を担う。アイデアと実行力を評価する。</li> </ul>
4	SNSを活用したルート情報発信事業 【十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間】	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発信側だけでなく、受信側の評価も聞きたかった。</li> </ul>
5	『きた北海道エコ・モビリティ』の推進 【天塩川シーニックバイウェイ 宗谷シーニックバイウェイ】	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクルツーリズムを前提にしたルート間の連携活動、そしてその発信性を評価。</li> <li>・交通不便地帯であることを逆手に取ったユニークな活動。でも移動環境を整えるための努力・工夫も評価できる。</li> <li>・連携事業・サイクルツアー</li> </ul>

活動名称 『きた北海道エコ・モビリティ』の推進

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 天塩川シーニックバイウエイ × 宗谷シーニックバイウエイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 目的・目標／体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆手に、地域にとってプラスにする方法を模索。⇒原始的でダイナミックなアウトドアフィールドを持つ、当エリアの地域資源や体験メニューを堪能しながら、JR（宗谷本線）を上手く活用し、地域全体の活性化・観光振興へと繋がるよう、移動そのものが観光となる新しい旅のスタイルを提供する『きた北海道エコ・モビリティ』を広域で連携・推進していく。自転車やカヌー、フットパスなどの「人力」による移動で、周遊性向上に繋がり、且つ、スロウな移動が地域への滞在時間を長期化、経済効果が生まれることも期待する。
- 活動内容／「道と川とJR」が並行する地域性を最大限に生かして様々な機関等での相乗効果を生むべく、モニターツアー（様々なアクティビティ体験+JR、自転車のみ+JR）を実施した。ストレスなく楽しめる「快適な旅」の提供として、移動時のストレスフリー（スムーズさ・快適さ等）やJR活用の検証のために、自転車のJRへの輸送や手荷物の当日配送による「手ぶら観光」を行った（ヤマト運輸による協力）。これらの実施結果も踏まえ、運営体制を強化、受け入れ環境整備等の充実を図った。

- 【具体的な取組】
- ・受け入れ環境の整備（モニターツアーでの周遊コース等の検証、サイクルラックやステーションの設置）
  - ・広報PR・情報発信（広域サイクリングイベント「TEPPEN-RIDE」、HP作成、オリジナルロゴの作成他）
  - ・先進地視察（「しまなみ海道（愛媛・広島）」、「スイス・モビリティ（スイス）」他）
  - ・勉強会等の開催（実施内容の報告会、有識者等による勉強会、地元ガイド育成のための講習会他）

- 活動期間／平成27年7月～平成30年3月（\*H30年4月以降も継続）
- 活動範囲／きた北海道エリア（天塩川シーニックバイウエイ、宗谷シーニックバイウエイ、その他関係する近隣市町村\*実施内容により）

②活動の体制



③PRポイント

★工夫した点・▲苦労した点 ★スイスでの先進地視察にて、JRとの連結の重要性を感じ、JRとの協議を行った。★地域に根付き、末永く愛着を持ってもらえるよう、地域産の食の提供や地元木材を活用したサイクルラックを作成した。★他機関との情報共有を密に行い、それぞれの取組状況を考慮しながら実施内容を検討し、エリア全体としてより効果的な事業展開となるよう努めた。▲取組が広がり増える中、地域・団体、自治体、企業等への取組に関する理解が難しかったが、目に見える形（ラックや広報PR、外部からの地域への注目等）で動きが活発になり、賛同し協力してくれる仲間が徐々に増えていった。

●活動の成果 ●旅行者ニーズ&地域での機運も高まり、エリア内でのスポーツレンタサイクル事業が急速に進んだ（天塩川SBW内で合計100台以上の購入、レンタルを開始）。●地元でのサイクリストが増え、地元でガイドできる人材が豊富になった。●ヤマト運輸との連携体制（手荷物の当日配送）が構築できた。●観光庁の周遊観光ルートの認定、サイクルツーリズムのモデルコースになった。

■今後の展開／・カヌーとの連結確立 ・JRとの更なる連携 ・本取組みの地域への浸透（普及） ・継続的な事業実施のための資金確保



▲「TEPPEN-RIDE」ゴールとなる日本のてっぺん「宗谷岬」にて。全員けがもなく無事に完走。



▲JRへの自転車の輸送



地域ガイドによるおすすめコースの案内



▲道の駅や主要施設等に地元木材を活用したサイクルラックを設置。

## ▼部門賞

### ①景観づくり賞

〔エントリー3件〕

～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～  
ビューポイントパーキングの景観改善（電線移設）  
（支笏洞爺ニセコルート）

### ②地域づくり賞

〔エントリー5件〕

キャンドル製作体験会～シーニックdeナイト～による  
地域人材育成

（函館・大沼・噴火湾ルート）

てしかが情報掲示板による情報提供の試行と効果検証  
（釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ）

### ③観光空間づくり賞

〔エントリー5件〕

『きた北海道エコ・モビリティ』の推進

（天塩川シーニックバイウエイ

宗谷シーニックバイウエイ）

## ▼最優秀賞「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト」

ルート審査委員会から次のプロジェクトを推薦を拝受

⇒～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～

### ■選出理由及び今後の発展に向けての期待

シーニックバイウエイ本来の景観の形成活動であり、シーニック根幹の取組であり、大変意味のあるものであることを評価。

今後、地方部での電線の見えない化の取組は、景観改善の取組事例として展開していくことを期待。

ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2017 活動団体賞投票結果

NO	ルート名称	活動名称	点数														活動団体賞	コメント (評価できる点、良かった点など)			
			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N			合計		
①	支笏洞爺ニセコルート	～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～ ビューポイントパーキングの景観改善(電線移設)				2	4	5		5	2			5		1	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路景観診断を実施され、景観改善に向けて何年も取組を継続して実現された。</li> <li>持続性・浸透性・拡張性・先進性など、全道を牽引する素晴らしい内容に敬意を表します。</li> <li>長年に渡る活動の成果だと思います。団体、行政、管理者の連携がなされた事業だと思います。</li> <li>シーニックの原点である美しい景観づくりの実践が評価される。この活動が全道に広がる可能性！</li> <li>ポスター、パンフレットなど観光素材としての価値が大きく向上したと考える。高付加価値化をはかったこのビューポイントが今後どのような効果が生まれてくるのかを期待。</li> </ul>			
②	大雪・富良野ルート	ゴミゼロキャンペーン			3									2			5	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地で当たり前のようにゴミ拾いが行われてきましたが、減って来ていても無くない。基本にかえってしっかりと啓発も含めて実施することは必要な活動とおもいます。</li> <li>活動の継続性から参加人数も多く、広範囲での取組も評価する。</li> </ul>			
③	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	3														4	<ul style="list-style-type: none"> <li>シーニックデッキからマルシェへの結び付け。地元建設業者のサポート体制を創った。</li> <li>観光客に細かいサービスに対して。</li> </ul>			
④	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー															1	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業との連携に対して。</li> </ul>			
⑤	函館・大沼・噴火湾ルート	キャンドル製作体験会～シーニックdeナイト～による地域人材育成				2				2			2	5		1	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>他団体と地域一帯な取組がなされ、ルートを主体的に運営できる人材育成の目的も達成された。</li> <li>長い期間続けていることに評価したい。子どもたちが参加することで郷土愛はもちろん人材育成の観点からもとても良い事業であると感じる。</li> <li>園児から小中高大学生までの学生が参加できるイベントを実施した点が良いと思う。子供たちへのキャンドル製作体験会の実施による人材育成。</li> <li>小さい子供さん等400名に対して、キャンドル制作を通してシーニックの周知を行った、事に対して。企画書等いただきたいと思えます。</li> <li>地元の園児、生徒、学生が参加する、地元に着目した地域おこしとしての魅力がある事業。</li> </ul>			
⑥	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	てしかが情報掲示板による情報提供の試行と効果検証	4		4	2				2			4	1	3		4	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅から街中へ人を入れる工夫。手段としてクーポンの発想(お風呂に良く気が付いた)。</li> <li>地域を巻き込み、シーニックとの連携を構築するのにはよい方法とおもいます。地方では特に参考にしたい取組みです。</li> <li>道の駅利用者に情報提供して地域の協力店舗と共に、町内や地域に誘導して地域の活力を取り戻す取組をされた。</li> <li>問題意識を持って新しいものに取り組む姿勢により浸透し、結果がついてきている。</li> <li>インフォメーションカードという一見アナログと思われる手法への着眼点</li> <li>きめ細かい情報発信に対して。</li> <li>道の駅利用者を対象に情報提供等をおこない、地域活性化に寄与している取組であり、事前調査を踏まえ利用者のニーズに合わせたクーポン発行は評価する。</li> <li>インフォメーションカードによる情報提供は秀逸。そこにクーポンを付けるという機能拡張も、事業検証が良く行われていると感じた。</li> </ul>		
⑦	札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート	地域づくり講演会&勉強会		5														5	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルート指定となつてから6年が経過し、ルートメンバーの意識を改めて統一する、または地域課題をルート全体で再認識するためにもよい取組と思われる。</li> <li>きめ細かい情報発信に対して。</li> </ul>		
⑧	どうなん・追分シーニックバイウェイ ルート	どうなんフットパス・ロード及び歴史の道掘り起し資源調査整備推進事業				2	1	1		2								6	<ul style="list-style-type: none"> <li>9町の個性を引き出し、フットパスも含めて地域の歴史・文化を生かした取組がされている。</li> <li>連携による取り組みを評価します</li> <li>歴史と文化は地域をつくる大事な要素だと思います。</li> </ul>		
⑨	宗谷シーニックバイウェイ	利尻島一周サイクル ブランド化事業						5	1	5			2		3	10	3	29	<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車サービスが実現化し、今後の取り組みに期待が持たれます。</li> <li>地域の観光手段を考えた事業だと思います。今は二次交通を考えるべきだと思います。</li> <li>離島を活用し自転車、エコとの運動にともなう魅力を感ずるとともに、実証実験の結果により北海道内の離島観光への寄与にも期待したい</li> <li>バスへの自転車積込サービスの実現と、愛称募集によるPR手法は参考になる</li> <li>サイクルツーリズムが適している北海道ですが、利尻島の魅力と安全面や環境整備が評価される。</li> <li>実証実験に止まらず、翌年には自転車積込みサービスを実現化している点が非常に評価できる。サイクルロードに愛称をつけてPRするという手法も素晴らしい。</li> <li>サイクリングロード適地とする事業目標や、手段としてのバスの自転車積込補助等の整備計画も明確である。</li> <li>観光客はもとより、地域住民も気軽に参加できる可能性を秘めており、地域おこしとしても高評価。</li> </ul>		
⑩	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	シーニックカフェと道の駅が連携したスタンプラリーの開催				2											1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で連携されて総数も前年度と比較し、全てにおいて大幅にアップされている。</li> <li>長年やられている事に対して。</li> </ul>		
⑪	萌える天北オロロンルート	シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進															1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的にカフェの運営、サービスの提供をしている仕組みが高評価。カフェ同士の交流、連携により相乗的に活性化が期待できる。</li> </ul>		
⑫	十勝シーニックバイウェイ トカプ子雄大空間	SNSを活用したルート情報発信事業			3												1	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、ますますリアルタイムな情報発信が求められます。むつかしいツールだと思いますが、こうした取り組みは是非必要だと思います。今後の取組に期待です。</li> <li>細かい情報発信に対して。</li> </ul>		
⑬	天塩川シーニックバイウェイ 宗谷シーニックバイウェイ	『きた北海道エコ・モビリティ』の推進	3	5										1	3	3		5	2	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕組みづくりが大変良い。各ルートの参考になる。</li> <li>他ルートと連携し地域団体、自治体、企業等へ協議・説明を重ねた結果、このような取組が実現したことは素晴らしい。今後の活動推進に期待する。</li> <li>観光庁の周遊観光コースの認定、サイクルツーリズムのモデルコースになるなど先進性</li> <li>2ルートの連携がうまくいくことにより、他ルートもこうした取り組みができるんだというシーニックバイウェイ北海道の取組みの先駆的な位置づけとしても大いに期待できるし、スイスモビリティの活動で全校との連携にも期待したい</li> <li>地域だけの取組ではなく、参画したJR・運送業、自治体、企業等などの多様性かつ広域での活動を高く評価する。</li> <li>自転車、カヌー、フットパスをJRと組み合わせた活動が評価される。</li> </ul>
⑭	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックマルシェの開催																	0		

合計点数 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10

ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2017 投票結果

<エントリー部門:①美しい景観づくり>

NO	ルート名称	活動名称	点数					合計	部門賞	コメント (評価できる点、良かった点など)
			A	B	C	D	E			
1	支笏洞爺ニセコルート	～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～ ビューポイントパーキングの景観改善(電線移設)	4	5	8	5	5	27	◎	・シーニックの原点・基盤である道路景観の再生むけて、持続的にかつ丹念に取り組んでいる。 ・長年の景観向上活動を踏まえ、電線移設を実施できた。この景観向上効果は非常に大きい。 ・長年の景観価値を向上させようとする活動、働きかけ、努力により、電線が移設されたことは、全国展開されようとしている無電柱化のトランシーバーとして意義が大きい。また、景観価値の高まりによって訪問者の活動が変わったことも興味深い。 ・景観改善の原点。他地域への波及効果期待 ・景観づくりの要となる電線の移設の実現はシーニックの景観改善のモデル事業となる。10年を越えての継続的な維持管理活動の成果の表れであると評価する。
2	大雪・富良野ルート	ゴミゼロキャンペーン	3	2	1	2	5	13		・住民参加による持続的な活動を評価。 ・地道だけど大事な活動 ・継続は力なり ・13年を越える地道な活動を高く評価する。一般に景観づくりは一朝一夕で出来るものではなく、関係者の地道で息の長い取組が必要である。定着させることの難しさを乗り越えた取組と評価する。
3	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	3	3	1	3		10		・多団体との連携、特に農業活動を巻き込んでの連携活動を評価。 ・地道だけど大事な活動 ・設置箇所増加

<エントリー部門:②活力ある地域づくり>

NO	ルート名称	活動名称	点数					合計	部門賞	コメント (評価できる点、良かった点など)
			A	B	C	D	E			
1	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー	1	2				5		・大事な活動だけれども、少しインパクト不足 ・ルートとルート内道の駅の連携を実質的なものにしたことは初めの一歩として評価する。今後はルート間をつなぐ活動へと発展して欲しい。
2	函館・大沼・噴火湾ルート	キャンドル製作体験会～シーニックdeナイト～による地域人材育成	4	1	3	3	4	15	◎	・持続的な人材育成を評価。 ・次世代、地域に広がりに向けて人材は非常に大事な要素。そこに向けての活動として評価できる。 ・更にパワーアップ ・事務局中心の活動から、地域一体の活動へと拡大を図り、主体的に活動する人材育成に取り組んだことを評価する。
3	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	てしかが情報掲示板による情報提供の試行と効果検証	2	4	5			15	◎	・道の駅の情報機能強化に大きな効果がある。クーポンを配付し、利用者動向を把握している点も評価できる ・面白い、かつ実践性の高い活動であり、すぐにも全国展開できるという意味で高く評価できる。 ・調査方法にクーポン機能を追加するなどの工夫を凝らし実態を把握したこと、クーポン提供店との連携、実質的な経済的効果を上げたことを評価する。
4	札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート	地域づくり講演会 & 勉強会	1	1			5	7		・地域を知る着実な活動への姿勢は重要。地域価値を生み出す活動に結びつくことを期待。 ・講演会だけでは少し工夫が足りない。 ・談話風発の場
5	どうなん・追分シーニックバイウェイルート	どうなんフットパス・ロード及び歴史の道掘り起し資源調査整備推進事業	2	2	2	2		8		・ルートの特徴・歴史性に着目した着実な活動は重要であり、全道・全国への発信を期待 ・歴史という道南に特有の資源の発掘行い、成果を地図とフォトコンテストとしてアピールしたことも良い。 ・地域のユニークな資源への地道な取り組み

<エントリー部門:③魅力ある観光空間づくり>

NO	ルート名称	活動名称	点数					合計	部門賞	コメント (評価できる点、良かった点など)
			A	B	C	D	E			
1	宗谷シーニックバイウェイ	利尻島一周サイクル ブランド化事業	1	2	1	5	3	12		・利尻島という大きな資源を活用した広域連携が素晴らしい。 ・サイクルツアー ・島という立地を活かしたサイクリングの取組事業は今後、他の島を持つルートのモデル事業となりうる。島内循環バスの自転車積込が実現した活動の成果は大きいと思われる。
2	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	シーニックカフェと道の駅が連携したスタンプラリーの開催	1	4	4			12		・地道な活動が徐々に花開き、参加者数の増加に表れているという印象。丁寧なフォローアップも重要 ・スタンプラリーの連携開催が7年目、応募者が最高数に達するなど、経済的効果も大きく、成果が目に見える形でできている。とかく実施することが目的となり、成果が伴わない取組もある中で、結果を出し続けていることを評価する。
3	萌える天北オロロンルート	シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進	2	2	1			9		・道の駅、空港、シーニックカフェの連携の下、スタンプラリーを長年に亘って行っており、データ解析も行っている点も評価できる。 ・もう少し頑張してほしい。 ・シーニックカフェのブランド化という他のルートとは違った一捻りした活動は、経済的効果へ直接結び付くと同時に、将来の情報発信基地の構築という重要な役割を担う。アイデアと実行力を評価する。
4	十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間	SNSを活用したルート情報発信事業	2	1	1			4		・発信側だけでなく、受信側の評価も聞きたかった。
5	天塩川シーニックバイウェイ 宗谷シーニックバイウェイ	『きた北海道エコ・モビリティ』の推進	4	1	3	5		13	◎	・サイクルツーリズムを前提にしたルート間の連携活動、そしてその発信性を評価。 ・交通不便地帯であることを逆手に取ったユニークな活動。でも移動環境を整えるための努力・工夫も評価できる。 ・連携事業・サイクルツアー

## ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2017実施要領

### 1. 目的

シーニックバイウェイ北海道の推進に向けて、他の模範となるルート活動の積極的な創出、啓発・普及を目的とする。

### 2. 表彰

大賞1件（指定ルートを対象）  
部門賞の中から大賞を1件選出

部門賞3件（指定ルートを対象）  
＜エントリー部門＞

- ①美しい景観づくり賞
- ②活力ある地域づくり賞
- ③魅力ある観光空間づくり賞

※部門賞は、部門毎に1件とし最大3件とするが、評価の結果によつてはこの限りではない。

活動団体賞1件（指定・候補ルートを対象）

### 3. 応募要件

応募の対象となる活動は次の条件に該当するものとする。

#### （1）指定ルートの場合

- ①それぞれのルート運営活動計画にもとづき実施し、2年以上の実績を有する活動を対象とする。
- ②過年度に「最優秀賞」を受賞した活動は応募不可とする。なお、最優秀賞以外の賞を受賞した活動は、再度の応募登録が可能とするが、選定にあたっては、前回からの改善、向上等が認められることを必要とする。

#### （2）候補ルートの場合

- ①ルート登録以前から継続実施している活動も可とする。
- ②過年度に受賞した活動は、再度の応募登録が可能とするが、選定にあたっては、前回からの改善、向上等が認められることを必要とする。

※応募件数は、各ルート『2プロジェクト』程度とする。なお、1部門につき1件の応募とする。

### 4. 応募期間

平成30年 3月26日（月）～平成30年 4月20日（金）

## 5. 応募様式

- ・ 取り組みの概要について説明資料を別紙1の様式をもとに作成する。
- ・ 活動団体はエントリー部門を自ら選択の上、プロジェクトを登録

(記載事項)

- i) 活動名称、エントリー部門、ルート名称
- ii) 活動概要(目的・目標、活動内容、具体的な取組、活動期間等)
- iii) 活動体制(活動団体、人数、体制図等)
- iv) PRポイント(総意工夫した点、苦勞した点、活動による効果等)

## 6. 選定方法

### ① 部門賞・・・ルート審査委員の投票による選定

- ・ ルート審査委員は各部門毎に上記視点を踏まえて登録プロジェクトを評価の上、持ち点10点の自由配分方式で配点する。
- ・ 集計の上、最多得票を得たプロジェクトを各部門の部門賞とする。

### ② 大賞・・・ルート審査委員による選定

- ・ 3点の部門賞プロジェクトを対象に、ルート審査委員会において総合的に判断し、大賞を決定する。
- ※ 各部門における登録プロジェクト数の多少により得点の大小も左右されるため、得点のみによる決定は行わない。

### ③ 活動団体賞・・・各ルートの投票による選定

- ・ 各ルートは、自ルート以外に登録された全プロジェクトに対し自らの価値観で評価するプロジェクトを、持ち点10点の自由配分方式で配点する。
- ・ 集計の上、最多得票を得たプロジェクトを活動団体賞とする。

## 7. 評価の視点

地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否かに評価の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

<部門賞及び大賞>

- 持続性(取組の継続性の程度を評価)
- 浸透性(地域内への広がり程度を評価)
- 拡張性(モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価)
- 連携性(地域同士や他団体との連携の程度を評価)
- 先進性(新しいものに取り組んでいく姿勢の程度を評価)
- 効果性(定量的・定性的な効果の程度を評価)
- 人材育成

※ 上記全ての網羅を条件とするものではなく、各指標の重み付けも固定されているものではない。

## 8. 各賞決定までの流れ(スケジュール)

別紙2のとおり

ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2017 応募一覧

NO	ルート名称	活動名称	エントリー部門	活動年数
1	支笏洞爺ニセコルート	～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～ ビューポイントパーキングの景観改善(電線移設)	①美しい景観づくり	13年 (H17～H29)
2	大雪・富良野ルート	ゴミゼロキャンペーン	①美しい景観づくり	13年 (H17～H29)
3	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	①美しい景観づくり	13年 (H17～H29)
4	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー	②活力ある地域づくり	6年 (H24～H29)
5	函館・大沼・噴火湾ルート	キャンドル製作体験会～シーニックdeナイト～による地域人材育成	②活力ある地域づくり	5年 (H25～H29)
6	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	てしかが情報掲示板による情報提供の試行と効果検証	②活力ある地域づくり	2年 (H28～H29)
7	札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート	地域づくり講演会 & 勉強会	②活力ある地域づくり	2年 (H28～H29)
8	どうなん・追分シーニックバイウェイルート	どうなんフットパス・ロード及び歴史の道掘り起し資源調査整備推進事業	②活力ある地域づくり	10年 (H20～H29)
9	宗谷シーニックバイウェイ	利尻島一周サイクル ブランド化事業	③魅力ある観光空間づくり	2年 (H28～H29)
10	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	シーニックカフェと道の駅が連携したスタンプラリーの開催	③魅力ある観光空間づくり	7年 (H23～H29)
11	萌える天北オロロンルート	シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進	③魅力ある観光空間づくり	4年 (H26～H29)
12	十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間	SNSを活用したルート情報発信事業	③魅力ある観光空間づくり	3年 (H27～H29)
13	天塩川シーニックバイウェイ 宗谷シーニックバイウェイ	『きた北海道エコ・モビリティ』の推進	③魅力ある観光空間づくり	3年 (H27～H29)
14	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ(候補ルート)	シーニックマルシェの開催	③魅力ある観光空間づくり	6年 (H25～H29)



# ベスト シーニックバイウエイズ プロジェクト2017 応募プロジェクト一覧



ベストプロ2016 最優秀賞

どうなん・追分  
シーニックバイウェイルート

『いにしえ街道の景観を  
活かした街づくり』

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

ベストシーニックバイウエイズプロジェクト2017

## ① 美しい景観づくり

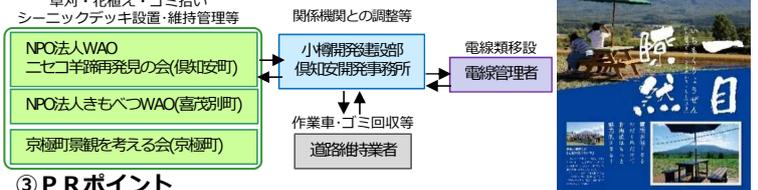
1. ～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～  
ビューポイントパーキングの景観改善(電線移設)
2. ゴミゼロキャンペーン
3. シーニックデッキの設置



①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標:  
シーニックバイウェイの原点と考える“美しい沿道景観づくり”と快適な休憩スペースの提供を目的とした取組。  
⇒国道276号倶知安町「八幡ビューポイントパーキング」は、地域のシンボルである羊蹄山が一望できるスポットでありながら、電線・電柱が眺望の妨げとなっていた。  
⇒電柱の老朽化による更新に伴い電線を移設し、羊蹄山を望む景観を大幅に改善し、シーニックデッキもリニューアル。
- 活動内容:  
ニセコ羊蹄エリア内のビューポイントパーキング3箇所での景観活動(草刈、花植え、ゴミ拾い、シーニックデッキ設置・維持管理)  
※道路管理者との景観診断を経て、地域・電線管理者と連携した電線移設の実現(平成29年度)
- 活動期間:平成17～29年度  
・実施場所:倶知安町八幡、京極町更進、喜茂別町相川の各ビューポイントパーキング  
※電線移設は倶知安町八幡

②活動の体制

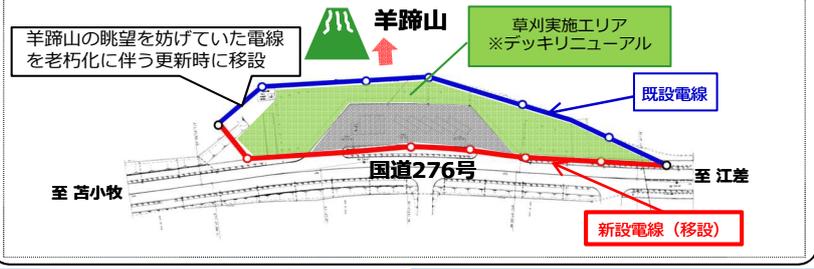


③PRポイント

- 【総意工夫した点や苦労した点】
- ・地域として大切な場所であるビューポイントの価値を高めるべく、10年を越えて継続的に維持管理活動を実施したこと。
  - ・地域・行政・道路管理者等の連携体制が十分に図られていた。
  - ・情報拠点等でのプロモーション展開(取組周知ポスターの掲示)
- 【活動による効果】
- ・地域資源(ビューポイント箇所)の高付加価値化
  - ・来訪者の滞在時間の増加/写真撮影者の増加

【「シーニックバイウェイ北海道」の取組により実現(全道初)】

- 平成15年度に「シーニックバイウェイ北海道」の取組としてルート活動団体と道路管理者で道路景観診断を実施し、継続して景観改善について検討
- 平成17～29年度にかけてビューポイントパーキングの維持管理活動(草刈・ゴミ拾い等)を継続展開  
※3町合同(京極町、倶知安町、喜茂別町)は平成24年度～
- 平成28年度に電柱の老朽化に伴い、更新のタイミングで眺望を妨げない位置に移設する検討が進められる
- 平成29年8月に電柱が移設されビューポイントパーキングの景観改善が実現



①活動概要

観光繁忙期を前にルートのおもてなし活動として、毎年、ルート沿道の清掃活動「ゴミゼロキャンペーン」を実施しています。活動は平成17年度のシーニック「集中活動月間」をきっかけにスタートし、**平成29年度で13回目**となりました。毎年、4月下旬から5月30日(5.30ゴミゼロ)までの約1ヶ月をキャンペーン期間として、旭川市西神楽と上富良野町(全域)で関係行政機関と連携し、活動を行っています。毎年、200人以上が参加し、清掃範囲も広がってきています。

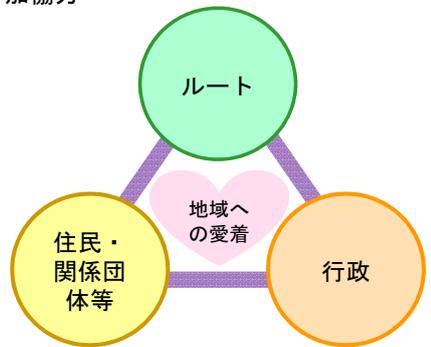
②活動の体制

- ◆ルート・・・企画調整・実施
- ◆行政機関・・・実施サポート及び参加協力
- ◆住民及び関係団体・・・参加協力

③PRポイント

【苦労した点・工夫した点】

- 活動期間を約1か月ほどのキャンペーンとすること、シーニック団体以外の地域団体(ライオンズクラブ等)と連携するなど多くの方が参加できる仕組みとしている。



③PRポイント

【活動の効果】

- 毎年の春の恒例活動として、地域住民や関係団体が参加することで、シーニックバイウェイの認知度や理解を高まり、普及につながっている。
- 参加者についても、少しずつ増えてきており、清掃エリアについても国道にみならず、道道や市道、町道へ拡大してきている。
- 毎年の恒例活動として定着化しており、地域の活動団体も積極的に参加している。



### ①活動概要

●活動の目的・目標：

景観の良い駐車スペースのあるポイントに、シーニックデッキを設置し旅行者などがゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東オホーツク地域全体の景観PRをはじめ地域との交流を促進します。また、農産物等の特産品販売等、コミュニティビジネスの創出の可能性も高め、更に道路利用者のオアシスとして交通安全に寄与させます。

●活動内容：

常設されているウトロポケットパーク、メーデーカーリー（斜里）の他、あばしりフロックス公園、メルヘンの丘（女満別）、季風クラブ（ウトロ）、コスモロード（上斜里）、コミット（清里）、斜里岳山小屋清岳荘（清里）、小清水リリーパークに置いて地域交流、休憩、良好景観鑑賞用のウッドデッキを春～秋にかけて設置しています。また、シーニックデッキの周知徹底のため、通常設置している数カ所から人の多く集まる箇所にデッキを集約し、『シーニック・マルシェ』を開催しています。

●活動期間：

平成17年度～（マルシェは上斜里コスモロードでの試行を含め平成19年度～）

### ②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等

【デッキ設置・撤去】網走市観光協会、小清水町観光協会、東藻琴観光協会、清里町商工会、きよさと観光協会、上斜里フラワーロード推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会、知床斜里町観光協会

【マルシェ】上記の活動団体の他、ルート内の農商工業者（出店者。10団体/年程度）

### ③PRポイント

●創意工夫した点

利用促進のため、マルシェやルートマップ、HPやSNSを活用してルート内外への取り組みと設置場所・時期の周知を行ないました。

●苦勞した点

メンバーも高齢化しているため、マルシェ時の重いデッキやテント等の移動や補修時のデッキの移動が大きな負担となっています。地元建設業関係者やルート担当にも協力頂いていますが、今後マルシェ出店者にもマルシェ時の移動には協力頂く等の対応を行っていただくと考えております。

●活動による効果

ルート内の新たな景観資源となりました。マルシェの実施により、ルート内でのシーニックの認知度向上、農商工業者の新たな販売機会を創出することができました。

●ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2015受賞（美しい景観づくり賞）からの改善点

近年売上の多いウトロ、パパス（清里）のマルシェを中心にルート内他地域も含めた新たな出店者への呼びかけを強化し、斜里・清里・網走から3者の新規出店を行うことができた。シーニックマルシェ（道の駅ウトロ・シリエトク）



シーニックデッキ（網走フロックス公園）



## ② 活力ある地域づくり



1. ルート内道の駅スタンプラリー

2. キャンドル製作体験会～シーニックdeナイト～による地域人材育成

3. てしかが情報掲示板による情報提供の試行と効果検証

4. 地域づくり講演会&勉強会

5. どうなんフットパス・ロード及び歴史の道掘り起し資源調査整備推進事業

**①活動概要**  
 ルート内の回遊性向上、ルートの認知度向上の目的から、ルート内7道の駅を対象としたスタンプラリーを6月1日～10月30日の期間で実施しました。景品(清涼飲料水1箱×2名、7道の駅特産品詰め合わせ×2名、7道の駅それぞれの特産品×14名)

**②活動の体制**  
 ●活動団体、人数、体制図等  
 【主催】：東オホーツクシーニックバイウエイ連携会議  
 【後援】：網走開発建設部、コカコーラ(株)網走営業所  
 【協力】：ルート内7道の駅

**③PRポイント**  
 ●創意工夫した点  
 包括連携企業であるコカ・コーラ(株)と連携し、景品等の一部を確保できました。

●苦勞した点  
 予算的制約等から、スタンプラリー帳にはシーニックの情報はルート名、ロゴ、簡易地図の記載が限界でした。今後はルートの認知度向上のため、ルートで推挙している観光資源情報等も加えていきたいと考えています。

●活動による効果  
 スタンプ帳10,000枚を作成・配布し、当選者枠が18人でありましたが、1,100人の応募をいただき、アンケート(1,100人)結果からは「今まで知らなかった地域情報を得ることができた」、「集めるのに1度よい数」等の好評の感触を得ることが出来、ルート内回遊性の向上に寄与できたと考えています。



表面



H30はノンキーランドひがしもことも追加します



裏面

**①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)**  
 ●活動の目的・目標：これまでのルート運営に係る会議やイベントなどは、ルート事務局が中心となって企画・実施する部分が多く、今後のルートを主体的に運営できる人材の育成を行うことが必要な状況。  
 ●活動内容：シーニックdeナイトの取組において、シーニックdeナイト実行委員会開催による企画実施・運営に関する講習を各地域団体へ実施し、各地域団体主導によるキャンドル製作体験会やシーニックdeナイトを開催した。  
 ●活動期間：平成25年度～平成29年度



第4東光保育園でのキャンドル製作体験会(園児19名参加)



八幡町会館でのキャンドル製作体験会(子供・学生70名参加)

**③PRポイント**  
 ・シーニックdeナイトの各実施団体のリーダーに声がけたシーニックdeナイト実行委員会を開催し、効果的な取組に向けた意見交換等主体的に地域で取り組むといった意識の醸成を図った。  
 ・出前講座を通じて得たキャンドル製作方法の知見から、各実施団体のリーダーを中心とした製作体験会を企画・運営・実施した。  
 ・また、キャンドル製作に関わった約400名の園児や学童などが、シーニックdeナイトのイベントにも参加してもらえた。  
 ・地域人材育成に向けた取組を通じ、今年度ルート内の全自治体でシーニックdeナイトを実施することができた(計13箇所)。  
 ・次年度に向け、キャンドル製作体験会やシーニックdeナイトに係る企画立案について検討する実施団体もいることから、地域一帯となった取組が図られたと同時に、地域人材育成の目的についても達成された。

①活動の概要

●活動の目標：増加する道の駅の利用者(特に夜間利用者)を町内・地域に誘導し、活力を取り戻すとともに、SBWの活動への地域理解を深める  
●活動場所と活動内容：道の駅摩周温泉の24時間トイレ前のスペース(平成28年8月から「てしかが情報掲示板」で情報提供を開始→継続中)

【背景】H26・27に夜間利用者の現況調査を実施  
・道の駅まで来ない観光客(町内まで来ない)  
・夜間の利用者(車中泊者も含む)の急増  
・観光案内所は18時で閉まるため、夜間利用者の地域情報(入浴施設、飲食施設など)入手が困難

【平成28年度:情報提供試行の開始】  
・辻谷運営委員長の**手作り**情報掲示板の設置  
・弟子屈町商工会と連携して情報提供施設を抽出  
・インフォメーションカードによる情報提供開始  
・ルートと開発建設部による協働調査の実施  
→ ルート:配布枚数調査  
→ 開建:道の駅ヒアリング調査

◎成果:ニーズの高い情報の把握、高い利用者評価  
▲課題:情報提供による効果の定量的な把握

【平成29年度:クーポン付きカードの配布開始】  
・カードへのクーポン機能の追加(H29年度は**8箇所**)  
→ クーポンの利用状況で情報提供効果を把握  
・ルートと開発建設部による協働調査の実施  
→ ルート:配布枚数調査、クーポン施設への調査  
→ 開建:道の駅利用者へのヒアリング調査

②活動の体制

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ  
・情報提供実験全体についての調整、分析  
・「てしかが情報掲示板」の作成と管理(配布枚数調査)

釧路開発建設部  
・ヒアリング調査  
・実験補助

地域(弟子屈町)  
・情報提供場所の提供(道の駅)  
・情報提供施設の紹介(商工会)





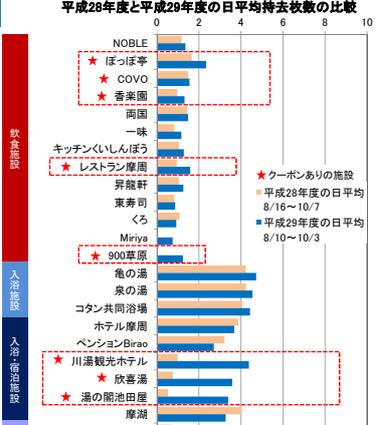

③PRポイント

●苦勞した点や工夫した点：事前調査で地域情報へのニーズの存在はわかっていたが、「ニーズの高さ」や「情報提供による効果(行動変容)」の**定量的な把握**が重要と考え、調査方法を工夫した。情報板が地域の方の手作りであることも、空間に温かみがあり、情報提供がうまくいっている理由であると思われる。

●活動の成果：  
・入浴施設の情報ニーズが非常に高いことを定量的に把握できた  
・情報掲示板とインフォメーションカードで情報を収集した人が、実際に施設に向かう(行動変容の発生)状況を把握できた  
・効果も明確で、**クーポン協力店舗から感謝、期待**されている

●今後の活動予定：  
・短期:平成30年度もクーポン施設を増やして情報提供を継続する  
・短期:開陽台(中標津町)の同様の情報板と連携して情報提供を行う  
・中期:カードの印刷、追加について地域側(道の駅、商工会など)と協力、連携し、継続的に情報提供を行う体制を構築する

施設名	実験後のヒアリング結果
ぼっぼ亭	実験について、とても感謝された。
香楽園	5名グループ、2名×2グループが利用。活動に対して感謝された。
川湯観光ホテル	とても感謝された。クーポンを継続して欲しいと言われた。特に冬は人が減るので是非継続して欲しいと言われた。
欣喜湯	トラブルはなかったが、いろいろなサービス券があるので少し混乱した。また協力しても良いとのこと。



①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

●活動の目的・目標：札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルートの将来像「住んでよし、訪れてよしの都市空間」を目指して、地域が抱える課題のヒントや解決の手がかりとなりそうな講演会・勉強会を部会メンバーで企画・実施する。

●活動内容：平成28年度は、2016年6月15日(水)に、ドラマにもなった元スーパー公務員、高野誠鮮氏による「あきらめない地域づくり」をテーマに南区住民を対象とした講演会を開催。平成29年度の第1回目は、札幌シーニックメンバーを対象に、札幌市立大学教授の原俊彦氏をお迎えし、札幌市内で最も高齢化が進んでいる南区において、今後の人口問題を考える「人口問題シンポジウム」を開催。第2回目は、平成23年のルート指定より6年が経過し、札幌シーニックの活動メンバー同士で、あらためて、シーニックバイウェイの活動について振り返り、今後の活動やルート運営に関するディスカッションを行う場として、「シーニックバイウェイって結局のところ何?」~今更だけど聞いてみよう~と勉強会を開催した。

●活動期間：平成28年度~平成29年度(2年目)



③PRポイント

●毎年、地域の課題を出し合い、自分たちで企画・運営する講演会・勉強会であり、企画段階から地域の課題の共有と解決に向けた前向きな検討の場となっている。

●平成29年度に実施した「シーニックバイウェイって結局のところ何?」~今更だけど聞いてみよう~のディスカッションでは、これまで全体の議論では埋もれていた地域共通の課題が明らかになり、今後、札幌シーニック全体で、課題解決に向けた取り組みを検討・実践していく機運が高まった。



平成28年度:高野誠鮮氏による「あきらめない地域づくり」



平成29年度:札幌市立大学教授 原俊彦氏による「人口問題シンポジウム」



平成29年度:「シーニックバイウェイって結局のところ何?」~今更だけど聞いてみよう~

▲基調講演:(一社)シーニックバイウェイ支援センター代表理事 原文宏氏

シーニックで解決したい課題は?

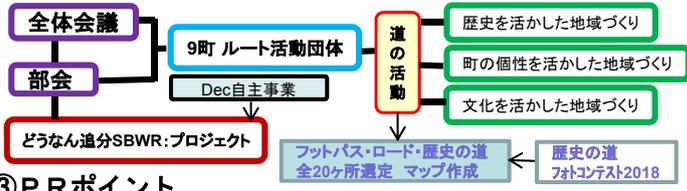


▲フリーディスカッション:札幌シーニックの活動を振り返って

①活動概要

- 活動の目的・目標：当ルートで進めてきた「道」を主軸とした地域の各活動と歴史・文化の継承を活動の核としていることを背景に魅力ある道・旧道を資源として活用、PRしていくために勉強会を重ねてきた。今回それらを取りまとめ道を通して地域の魅力を満喫できるものを実現・発信していくことを目的とする。
- 活動内容：各地域の資源のとりまとめと史実調査を行い候補の「道」を選出した。専門学識者を招聘し、講演を行って頂きエリアに選出した「道」の視察を行った。狭い枠にとられないよう先進地を巡って研鑽を重ね、地域資源をPRするマップの作成と周遊ルートの提案を行った。また、一方で「歴史の道フォトコンテスト2017」を開催し、入賞作品を活用したPR広報を計画している。
- 活動期間：平成20年度～29年度（当ルート設立より10年目）

②活動の体制



(一社) 地域研究工房 代表理事小磯先生の学習会 (一社) 地域研究工房 代表理事小磯先生とエリア視察

③PRポイント

【苦勞した点や工夫した点】

- ・道の選択や名称付けなどに9町の個性を引き出すことに苦勞した。
- ・写真撮影の時期と視察の時期が重なったため行程がかなり繁忙となった。
- ・マップの完成期日にバラつきがあり予定より完成が遅れてしまった。

【活動の成果】

- ・ルート内での発見が互いにあり有意義な道の選出・意見交換ができた。
- ・先進地視察（青森県）についても広域連携の重要性について再認識できた。ほか、マップ製作活動を研鑽することができた。
- ・ルート創立10年という節目に合った連携事業となった。

【今後の活動予定等】

- ・ルート活動の核である「歴史・文化」を「道」と繋げ、それぞれが活動を重ねた結果を取り纏めた形だが、今後各地域の活動が継続・推進された中で、学習会や史実調査を行い、発展的な更新をしていく予定である。



③ 魅力ある観光空間づくり



1. 利尻島一周サイクル ブランド化事業
2. シーニックカフェと道の駅が連携したスタンプラリーの開催
3. シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進
4. SNSを活用したルート情報発信事業
5. 『きた北海道エコ・モビリティ』の推進
6. シーニックマルシェの開催

活動名称 利尻島一周サイクル ブランド化事業 エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 宗谷シーニックバイウエイ

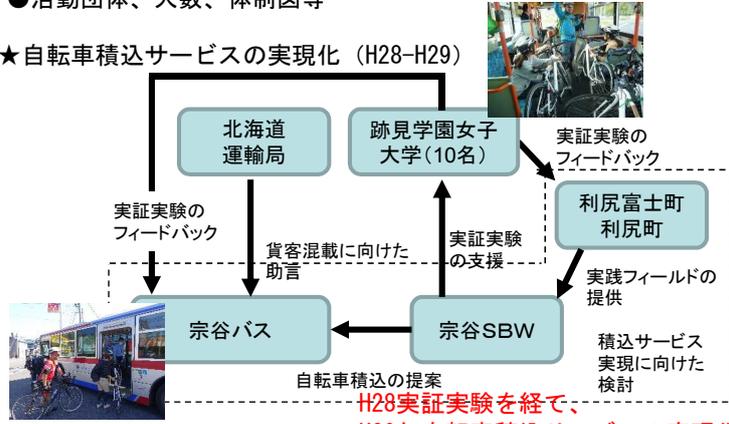
①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標: 宗谷SBWでは、宗谷地域の滞在型観光・ツーリズムを推進を大目標に「宗谷版スイス・モビリティ事業」を継続的に展開している。「環島」や「ピワイチ」などがサイクリストに人気を博している昨今、利尻島一周サイクリングロード適地とすることを目標に、島内周遊の利便性向上とブランド化に向けた取り組みを行った。
- 活動内容: 島内循環バスの自転車積込の実現化と利尻島一周サイクリングコースの愛称募集を通じたPR事業と利尻島一周ツアーの企画運営
- 活動期間: 28年度～29年度

②活動の体制

- 活動団体、人数、体制図等

★自転車積込サービスの実現化 (H28-H29)



H28実証実験を経て、H29年自転車積込サービスの実現化!

★利尻島一周サイクリングコースの愛称募集を通じたPR事業 (H29)

7月20日(木)～8月15日(火)	特設HP及びサイクル雑誌にて、愛称募集期間(全国から415件の応募)	利尻・彩くるロード Rishiri Cycling Road~The Multi-colored Trail~  日本海に浮かぶ最果ての「利尻山」。見る角度・季節によって様々な表情を楽しめます。麓には美しい海岸線が続き、海の向こうには礼文島と360度パノラマが続き、彩豊かな自然美・絶景がサイクリスト魅了します。
8月27日(日)	「第29回利尻島ふれあいサイクリング大会」での人気投票	
8月28日(月)	利尻島一周サイクリングコース愛称審査会	
9月8日(金)～9月10日(日)	夜行バスで行く1泊3日利尻島サイクルツアーの実施	

③PRポイント

- 【苦勞した点や工夫した点】①宗谷地域の二次交通の脆弱さの解消とツーリズムによる地域の魅力増幅を運動させ、弱みを強みに逆転させる発想を採った。②全国的なサイクル雑誌を通じて愛称募集をすることで、全国的なPRを行った。また、サイクルイベントでの投票により実際に利尻島を走ったナマの声を反映できた。
- 【活動の成果】①H29年度に自転車積込サービスが実現し、ライト層でも島内自転車周遊を楽しめる環境整備が大いに前進した。②応募数が期待以上で、愛称募集を通じたPR手法に手応えあり。
- 【今後の活動予定等】①今後利尻島での実証結果を他地域でも応用し、自転車を観光手段の媒体とすることで、二次交通・三次交通が脆弱な中でも宗谷観光の楽しみ方を倍増させていきたい。②H30年は「利尻島ふれあいサイクリング大会」が30周年となる。周年と抱き合わせでより愛称を普及させていく取り組みを行いたい。

活動名称 シーニックカフェと道の駅が連携したスタンプラリーの開催 エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ

①活動の概要

- 活動の目標: シーニックカフェと道の駅の連携による地域の魅力アップと交流人口の増加
- 活動の内容: シーニックカフェ6箇所、釧路・根室管内の道の駅7箇所、たんちょう釧路空港、根室中標津空港を結ぶスタンプラリー(ぐるっと!スタンプラリー)
- 活動場所: 釧路・根室管内全域
- 活動期間: 平成29年度の開催期間:平成29年4月29日～平成29年10月31日

②活動の体制



主催:くしろ・ねむるぐるっと!スタンプラリー事務局(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ事務局内) 共催:釧路・根室地域「道の駅」連携会議、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ運営行政連絡会議ほか 後援:北海道地区「道の駅」連絡会、北海道開発局釧路開発建設部、一般社団法人シーニックバイウエイ支援センター

③PRポイント

- 単発で終わらない持続的な実施と継続的な改善:平成23年度から始まった本スタンプラリーは、現在7年目。釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイのシーニックカフェグループミーティングや、行政連絡会議での継続的なブラッシュアップもあり、地域に根付いた、リピーターの多いスタンプラリーに成長しています。
- 道の駅と連携して魅力アップ:台紙やポスターの作成、印刷を釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイで実施する一方、参加者への賞品については、全ての道の駅側から提供(平成29年度は39名分)をいただいています。
- つい立ち寄りたくなるサービス提供:シーニックカフェ6箇所、道の駅4箇所では、スタンプラリー台紙を見せると、ドリンクやトッピングのサービスや、料金割引などの独自サービスが受けられるようになっています。
- スタンプラリー参加者数の増加:右下表に示すように、シーニックカフェ、道の駅ともに確実に来訪者が増加しており、地域の交流人口増加に役立っています。



写真 カフェミーティングでの意見収集

【活動の成果】

- 平成29年度はスタンプラリーの応募者が1200人を超えました。シーニックカフェと道の駅のスタンプをそれぞれ1箇所以上、合計4箇所以上で応募できるルールになった2年目(平成24年度)以降で、最高の応募者数となりました。
- 特にシーニックカフェへの立ち寄り数の増加が目立っています。

	平成29年度	(前年比)	平成28年度
スタンプラリー賞品への応募者数	1,218名	(114%)14%増	1,069名
賞品応募者の対象施設への立ち寄り総数	9,295件	(118%)18%増	7,907件
うち、「道の駅」への立ち寄り総数	5,770件	(115%)15%増	5,014件
うち、シーニックカフェへの立ち寄り総数	2,179件	(122%)22%増	1,793件

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的：ルート内の景観や店舗の魅力があり地域の人がおススメできる飲食店を、シーニックカフェとして登録し、統一的にPRすることで、**ブランド化に繋げる**ことを目的として平成26年度から実施している。ルート内外の**カフェ同士が連携**することで、**より魅力的な観光空間**を作ること目的としている。
- 活動内容：シーニックカフェの登録推進（H26：3箇所、H27：2か所、H28:2か所、H29:2か所合計9か所）に定期的に取り組んでいる。カフェに統一のシーニックカフェPOPを配置し、ブランド化を推進（H27）。既存のルート活動（道の駅オロロンスタンプラリー）への参加（H28）と徐々にブランド化を強化。平成29年度には、ルート内のカフェ同士での連携を模索する活動を展開。3月13日、14日には、ルート内のシーニックカフェ有志による「キャンドルナイトdeホワイトデー in scenic cafe」が施行されるなど、徐々に活動範囲を拡大。
- 活動期間：平成26年度～平成29年度

②活動の体制

ルート幹事と行政連絡会議（開建）とが連携し、登録を推進。既存のプロジェクト（地域情報発信プロジェクト）と連携しながら、カフェ同士で連携を模索する体制に徐々に進化。

③PRポイント

【苦勞した点や工夫した点】

単なる登録に留まらず、登録開始当初から、カフェ同士の連携、連帯感の創出を目指し、統一のPOPを活用。既存活動との連携により、ブランド化・周知活動をより円滑に効果的に行った。個々のカフェにはカフェ連携の認識がなかったため、徐々に連携への意欲を高めるアプローチを行った。

【活動の効果】

スタンプラリーへの参加で、集客にもつながり、シーニックカフェとしての認識や参加意欲が上がった。個々のカフェ自体の認識が徐々に芽生えてきており、カフェ同士での連携活動の試行まで展開できている。

【今後の活動予定】

カフェミーティングの開催（カフェ同士の連携方策を話し合う）連携方法の試行（互いの店舗情報や魅力を店内でPR）ルート内の魅力的な地域資源のPR発信地としての機能を目指す



シーニックカフェの紹介用POP（H27）



スタンプラリーへの参画（H28）



ルート内のシーニックカフェ有志が連携しキャンドルナイトの試行（H29）

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：トカプチ雄大空間エリア内における、ルート活動、ルート会員の季節情報や施設情報、行政のイベント情報等を発信し、十勝に訪れる観光客に魅力ある観光資源を周知させ、エリア内の周遊を促すことを目的としている。
- 活動内容：年間を通して、HP・Facebook・YouTube等で情報発信。
- 活動期間：平成27年度～平成29年度

③PRポイント

【苦勞した点や工夫した点】

ルート内で検討を行い「情報発信の強化」を目標に下記の内容を改善。

- ルートマップの改善  
ライフコンシェルジュ（ご当地風土アドバイザー）のおすすめポイントを女性に好まれる可愛いイラスト等でポイントを紹介。
- トカプチ雄大空間のホームページを大きくリニューアル  
目玉として、3ルートモデルコースを調査検討・作成した。（QRコードでモデルコースの経路確認もできる）
- 情報発信の対象に合わせたSNSの活用  
様々な世代や性別、情報収集方法に対応して、[ホームページ][Facebook][YouTube（試行）]等を連動して情報発信。
- 持続的な情報発信  
ルート会員やライフコンシェルジュを対象に気軽に情報発信できるように、[SNS研修会]を開催し、情報発信のための人材育成も実施。

【活動の成果】Facebookは昨年から活動を開始し、ホームページにリンクさせている。活動当初のフォロワー数100名程度から、3月末時点で350名ほどになり、連動した情報発信により、ホームページ閲覧数も増加傾向にある。

【今後の活動予定等】SNS研修会の継続な実施、行政や他ルートと連携した更なる情報発信強化に加え、動画や写真で現地のイメージも紹介しながら情報発信を実施する予定。

②活動の体制

●活動主体：「知る部会」知る部会会員 13企業

●活動内容

- トカプチエリア行政 8市町
- 十勝平野・山麓ルート
- 南十勝夢街道（十勝全体の情報発信で連携）

連携情報発信

このブロックには、プロジェクトの様々な情報発信手段が紹介されています。左側には「ルートマップ」のスクリーンショットがあり、右側には「トカプチ雄大空間HP」のスクリーンショットと「Facebook」の投稿画像が示されています。また、「YouTubeチャンネル」のサムネイルも含まれています。赤い矢印は、これらのプラットフォームが互いに連携して情報を発信していることを示しています。

- ★ホームページと各SNSツールが連動して情報発信！！
- ・ルートマップ情報（スポット紹介。HPでスポット検索も可）
- ・モデルコース情報（QRコードで経路も表示）
- ・Facebookで拡散（HPへ誘導して詳細情報を紹介）
- ・ルートのYouTubeチャンネルで地域の映像情報提供

活動名称 『きた北海道エコ・モビリティ』の推進 エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 天塩川シーニックバイウェイ × 宗谷シーニックバイウェイ

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

●目的・目標/体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆手に、地域にとってプラスにする方法を模索。
→原始的でダイナミックなアウトドアフィールドを持つ、当エリアの地域資源や体験メニューを堪能しながら、JR(宗谷本線)を上手く活用し、地域全体の活性化・観光振興へと繋がるよう、移動そのものが観光となる新しい旅のスタイルを提供する『きた北海道エコ・モビリティ』を広域で連携・推進していく。自転車やカヌー、フットバスなどの「人力」による移動で、周遊性向上に繋がり、且つ、スロウな移動が地域への滞在時間を長期化、経済効果が生まれることも期待する。

●活動内容 /「道と川とJR」が並行する地域性を最大限に生かして様々な機関等での相乗効果を生むべく、モニターツアー(様々なアクティビティ体験+JR、自転車のみ+JR)を実施した。ストレスなく楽しめる「快適な旅」の提供として、移動時のストレスフリー(スムーズさ・快適さ等)やJR活用の検証のために、自転車のJRへの輸送や手荷物の当日配送による「手ぶら観光」を行った(ヤマト運輸による協力)。これらの実施結果も踏まえ、運営体制を強化、受け入れ環境整備等の充実を図った。

【具体的な取組】・受け入れ環境の整備(モニターツアーでの周遊コース等の検証、サイクルラックやステーションの設置)
・広報PR・情報発信(広域サイクリングイベント「TEPPEN-RIDE」、HP作成、オリジナルロゴの作成他)
・先進地視察(「しまなみ海道(愛媛・広島)」、「スイス・モビリティ(スイス)」他)
・勉強会等の開催(実施内容の報告会、有識者等による勉強会、地元ガイド育成のための講習会他)

●活動期間 /平成27年7月~平成30年3月(\*H30年4月以降も継続)
●活動範囲 /きた北海道エリア(天塩川シーニックバイウェイ、宗谷シーニックバイウェイ、その他関係する近隣市町村\*実施内容により)

実施主体: きた北海道エコ・モビリティ
天塩川シーニックバイウェイ(事務局)
宗谷シーニックバイウェイ
シーニックバイウェイ支援センター
実施内容: 北海道エコ・モビリティ研究会, 北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会, 旭川開発建設部/稚内開発建設部, その他(団体、自治体、企業等)

②活動の体制

★工夫した点・▲苦労した点 ★スイスでの先進地視察にて、JRとの連結の重要性を感じ、JRとの協議を行った。★地域に根付き、未永く愛着を持ってもらえるよう、地域産の食の提供や地元木材を活用したサイクルラックを作成した。★他機関との情報共有を密に行い、それぞれの取組状況を考慮しながら実施内容を検討し、エリア全体としてより効果的な事業展開となるよう努めた。▲取組が広がり増える中、地域・団体、自治体、企業等への取組に関する理解が難しかったが、目に見える形(ラックや広報PR、外部からの地域への注目等)で動きが活発になり、賛同し協力してくれる仲間が徐々に増えていった。

●活動の成果 ●旅行者ニーズ&地域での機運も高まり、エリア内でのスポーツレンタサイクル事業が急速に進んだ(天塩川S BW内で合計100台以上の購入、レンタルを開始)。●地元でのサイクリストが増え、地元でガイドできる人材が豊富になった。●ヤマト運輸との連携体制(手荷物の当日配送)が構築できた。●観光庁の周遊観光ルートの認定、サイクルツーリズムのモデルコースになった。

■今後の展開/カヌーとの連結確立・JRとの更なる連携・本取組みの地域への浸透(普及)・継続的な事業実施のための資金確保

活動名称 シーニックマルシェの開催 エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ

①活動概要

●活動の目的・目標: 高規格道路の延伸が予定されており、オホーツク管内のゲートウェイである遠軽町で、遠軽町民や観光客にルート内の特産品の魅力を認識頂き、ルート内の回遊性向上、来訪者増加を目指しています。
●活動内容: 遠軽町コスモスフェスタ内に、シーニックの概要及びルート内地域資源PRパネル展示、ルート内の特産品販売を実施しました。
●活動期間: 平成25及び26年度(上川町で開催)、28年度~

■開催概要
日時: 平成29年9月10日(日)
場所: 遠軽町(太陽の丘公園内コスモスフェスタ会場)

②活動の体制

企画・運営: コスモスフェスタ実行委員会、層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ
協力: 湧別、紋別、遠軽のオホーツクシーニックバイウェイ構成団体、ルート内商工業者(中心的な役割: 遠軽観光協会、遠軽商工会議所、紋別観光協会)



特産品販売ブース



特産品販売ブース

③PRポイント

●創意工夫した点 シーニックの理念や活動を理解いただくため、地域特産品出店者から接客時に積極的にシーニックの概要及びルート内地域資源PRパネル展示コーナーに誘導いただくよう依頼しました。
●苦労した点 マルシェは収穫時期に行うため、ルート内での他のイベントと重なり、出店する商業者が当初は少なく、代理販売を行う際のメンバーの確保に苦慮しました。
●活動による効果 紋別の揚げかまぼこ等、好評であった特産品も多数あり、一定の特産品PRの効果と出店者の売り上げはあったと思われます。



特産品販売ブース



ルート内地域資源PRパネル展示